



第20回 日本モビリティ・マネジメント会議

企画セッション：ドライバー不足と交通空白

武器としてのデータ活用～フランスのバス会社の事例より～

国土交通省 板垣 友圭梨



自己紹介

板垣 友圭梨 (いたがき ゆかり)



フランスで唯一運転した車が
18mの連接バスです！

2014年 国土交通省入省

・振り出しは道路局。主に道路関係法令の改正などに携わる

2016年 自動車局旅客課

・軽井沢スキーバス事故後の法律改正など、何かと話題の多い時期。このときにバスをはじめ都市交通に出会う

2020年 関東運輸局

・貴重な地方勤務経験。協議会にも多く出席し、自治体やバス会社の課題に直面する。

2022年 フランス留学

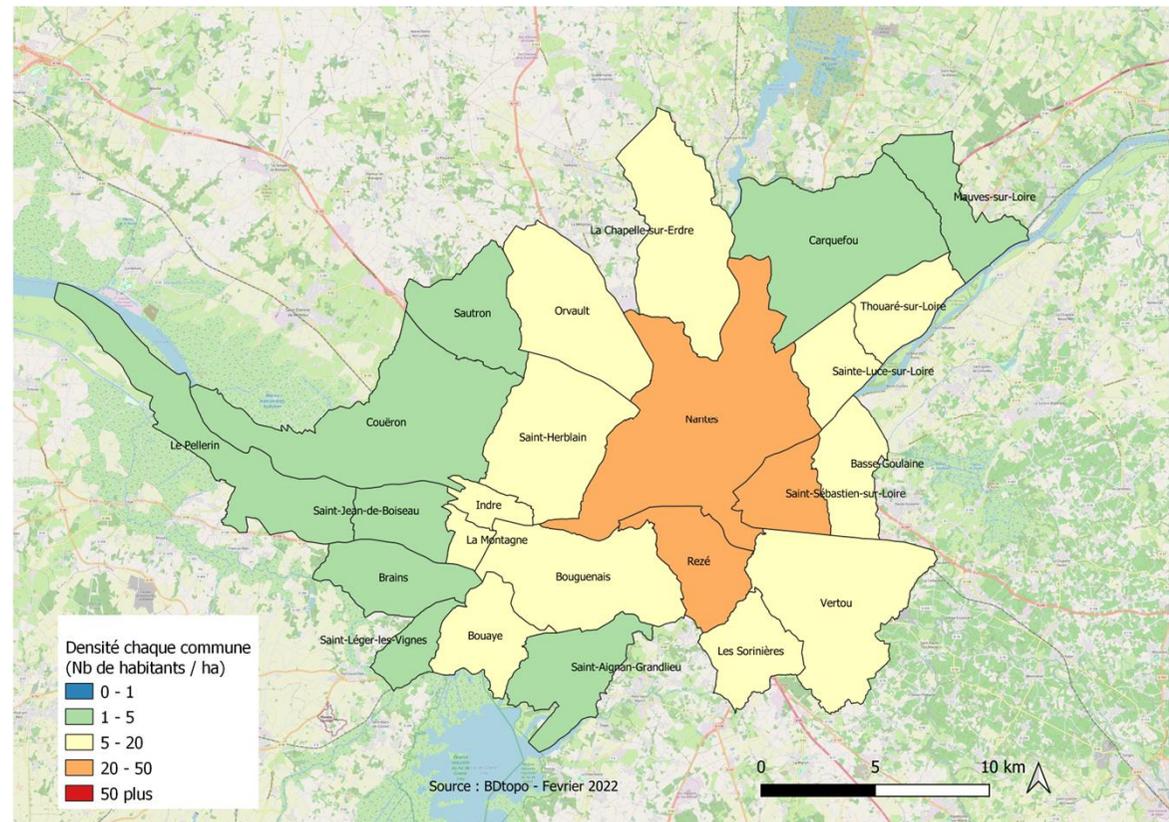
・フランスの地方都市で生活しながら都市交通を学ぶべく渡仏。最後の半年は現地のバス会社でインターン。

2024年～ 現職

・帰国後、総合政策局地域交通課を経て、現在は鉄道局鉄道事業課でローカル鉄道の施策に従事。

フランスの地方都市（ナントメトロポール）

- ナントを中心とする24のコミューンで形成（542km²）
- 人口約67万人
雇用者数 約365,000人
学生数 約68,000人
- 2014～20年で人口約53,000人（8.3%）増加



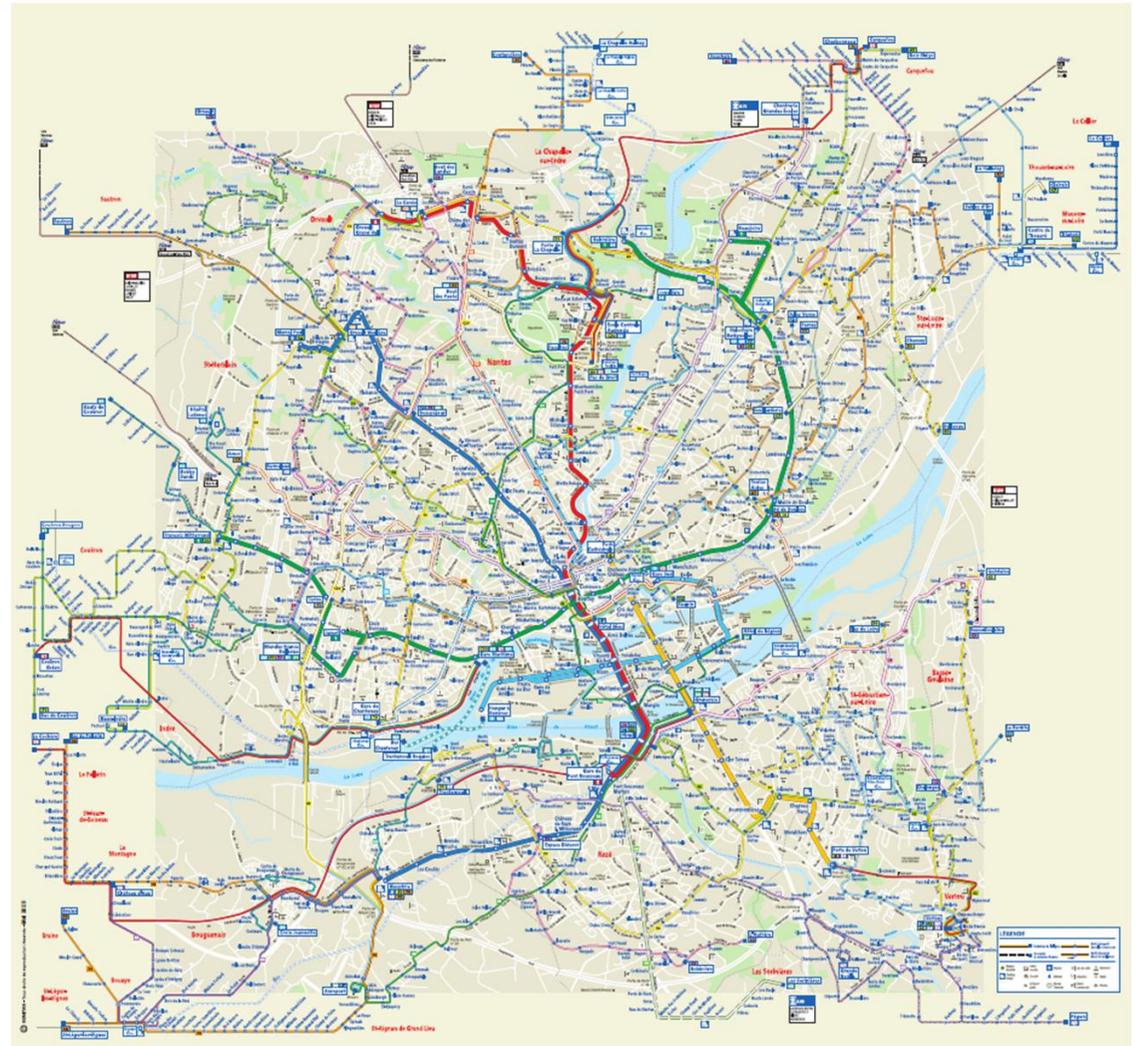
ナントメトロポールの交通網

トラム	3 路線 (44km)
Busway	2 路線 (13km)
Chronobus	8 路線 (86km)
バス	43路線
船	3 路線

この他、デマンド、空港アクセス、深夜バス等も運行



年間利用者数は合計 **1億5,410万人**



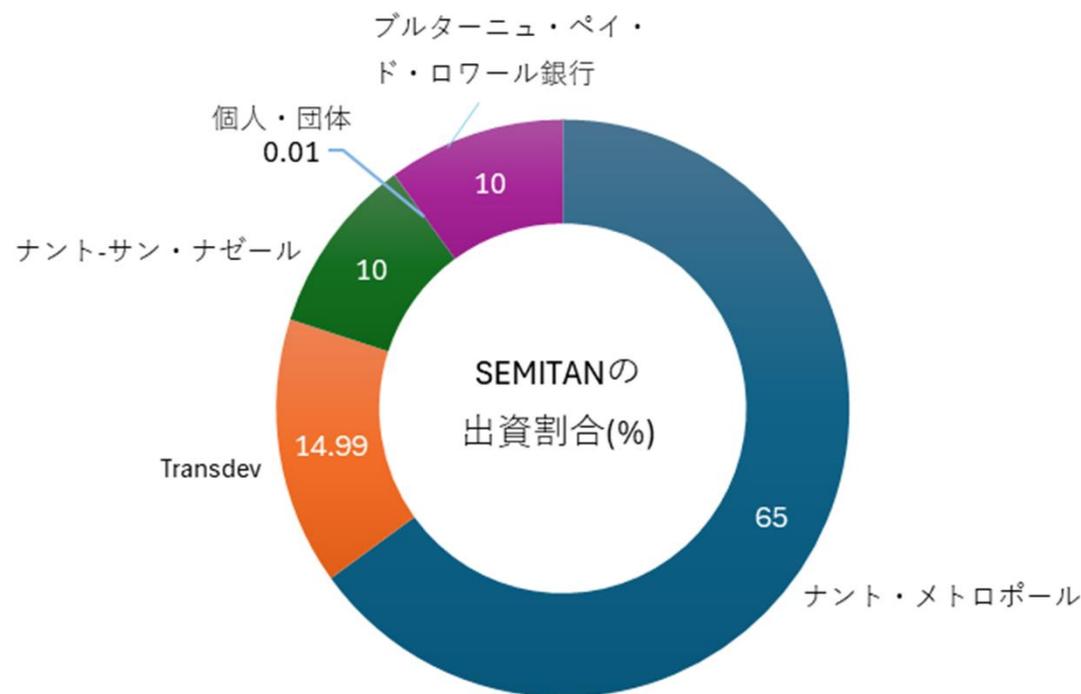
運行委託を受けるバス会社

SEMITAN (Société d'Économie Mixte des Transports en Commun de l'Agglomération Nantaise
: ナント都市圏公共交通社会経済混合会社)

- ナントメトロポールが最大出資者の第三セクター
- DSP（公共サービス委託契約）により7年間運行を受託

【DSP契約の内容】

- 5つのテーマに分類された27の指標に基づいて毎年サービス品質を評価
- 達成すべき基準値（90%）に満たない場合、最大500,000ユーロ（1ユーロ160円計算で8,000万円）の罰金



出典 : Rapport d'activité 2024 de SEMITAN

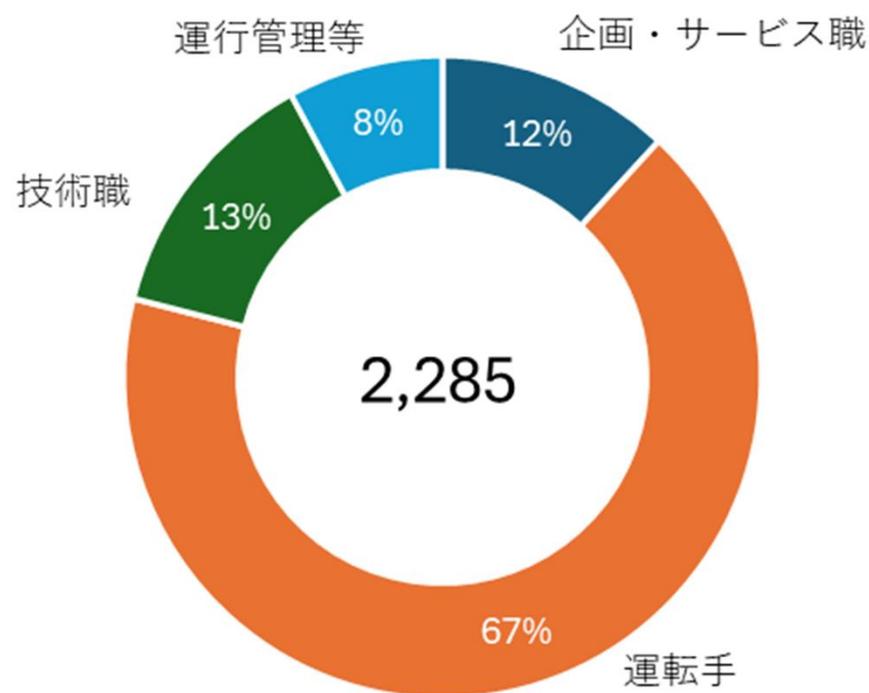
従業員の構成

□ 社員数 2,285人 (対前年+85名)
(内運転者数 1,533人)

□ 平均年齢 45歳

□ 平均勤続年数 12年

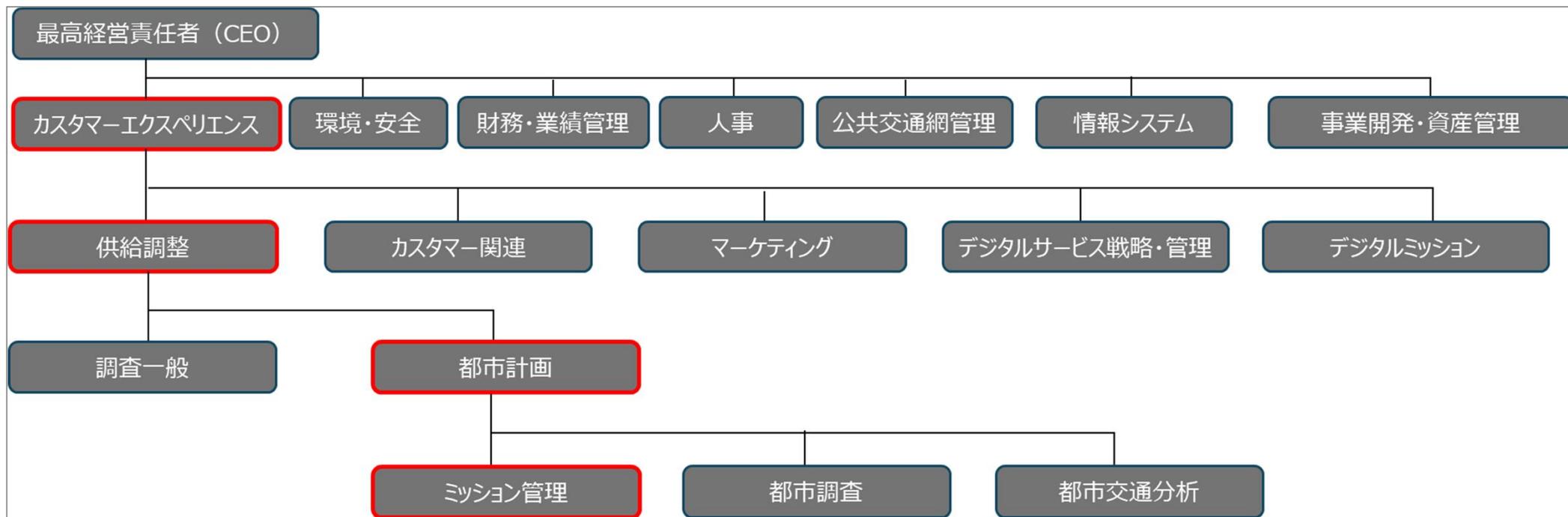
※訓練生としてアルバイトの学生も運転者として雇用



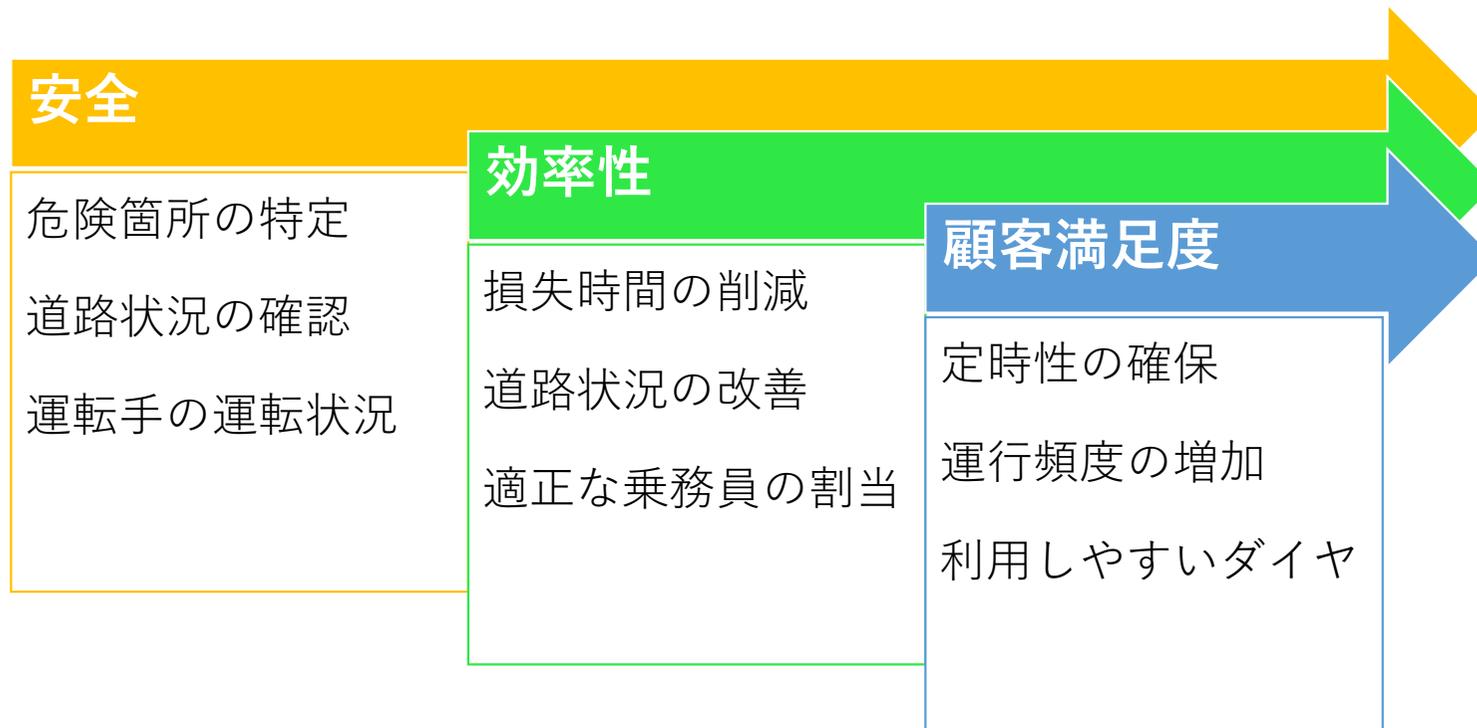
出典 : Rapport d'activité 2024 de SEMITAN

SEMITANの組織

- 業務がセクションによってかなり細分化されており、部署によるが平均的に1セクションで4～5名程度のスタッフが雇用されている。



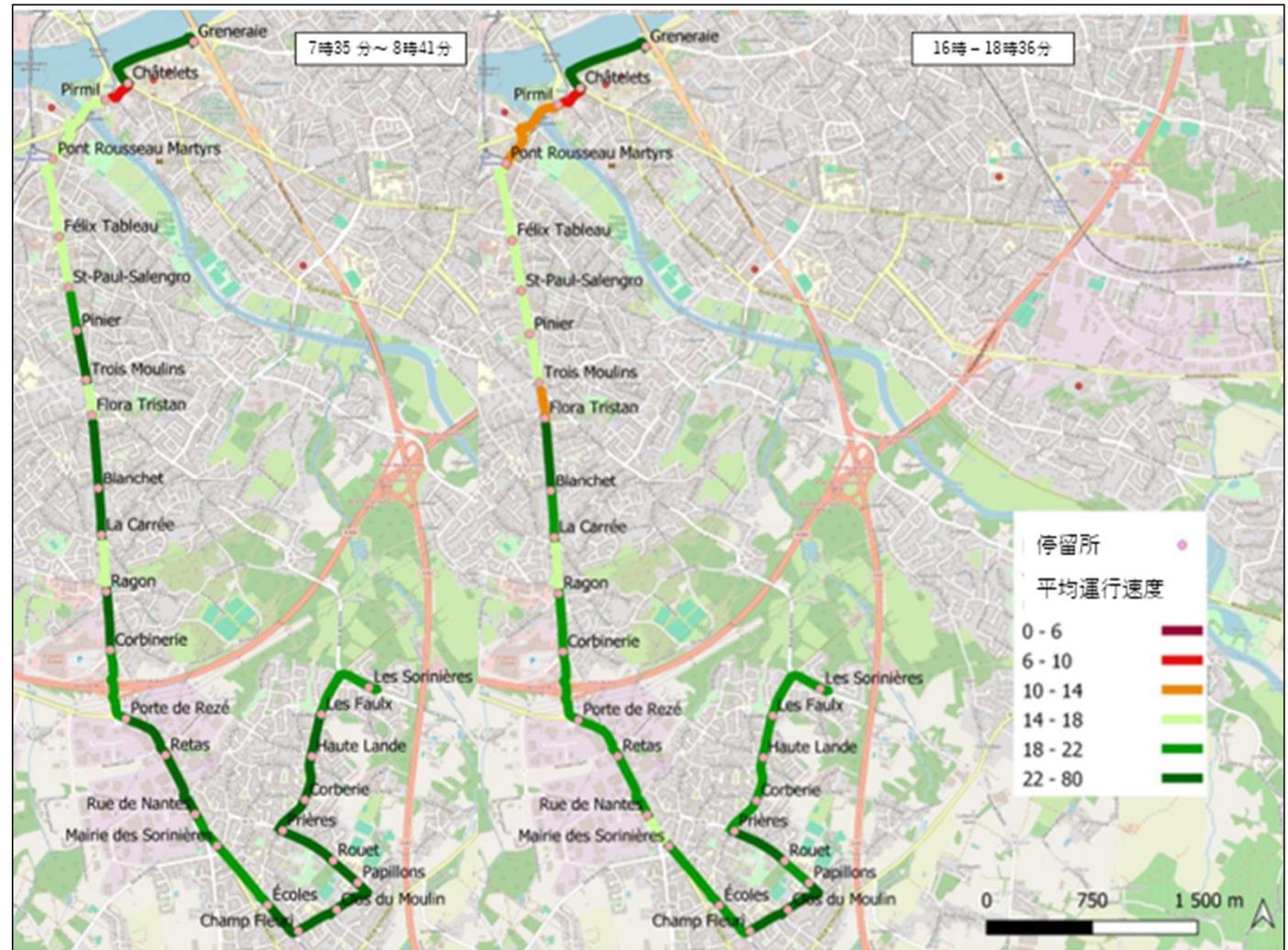
バス会社のミッションは？



データの蓄積・分析を大切にする

例えば・・・

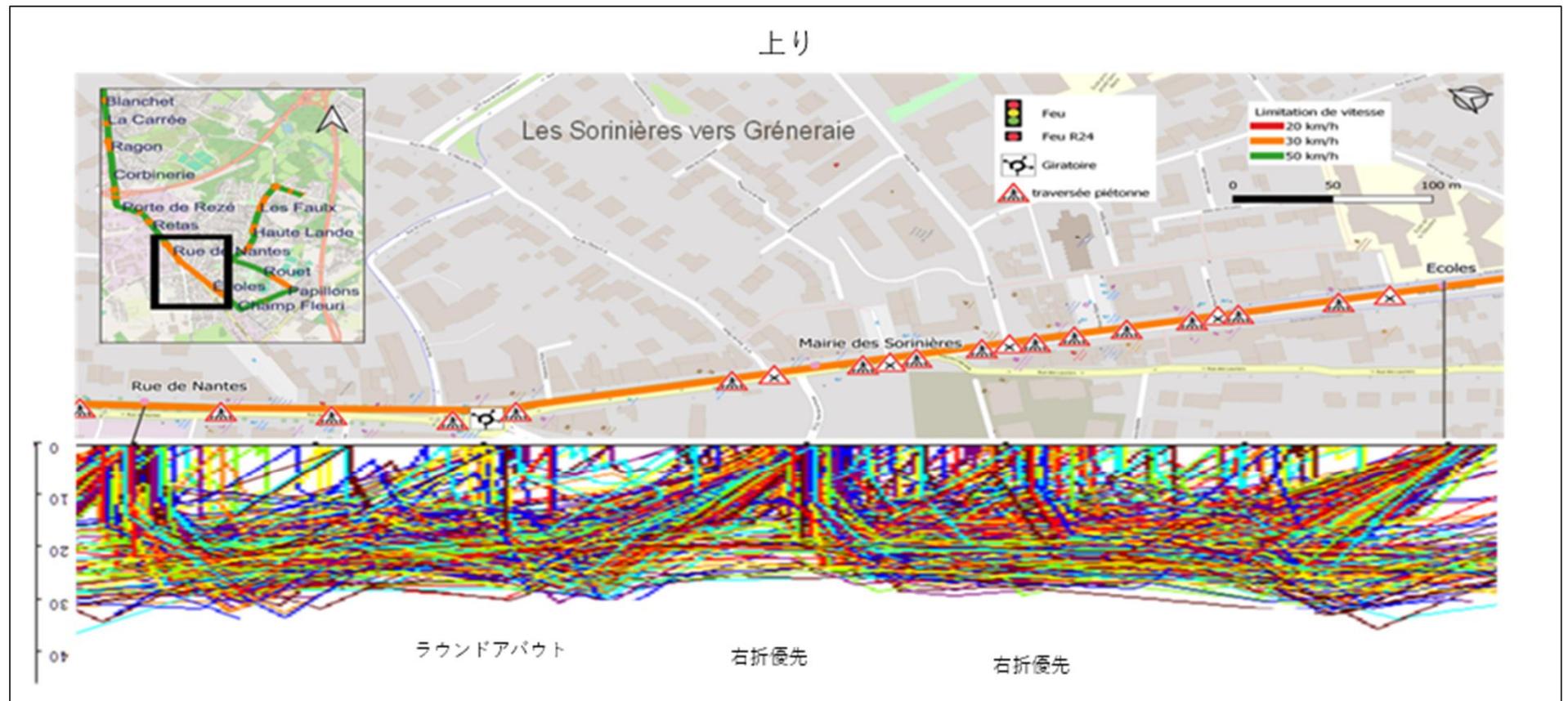
- 平均運行速度を可視化して、ボトルネックを探す



出典：SEMITAN

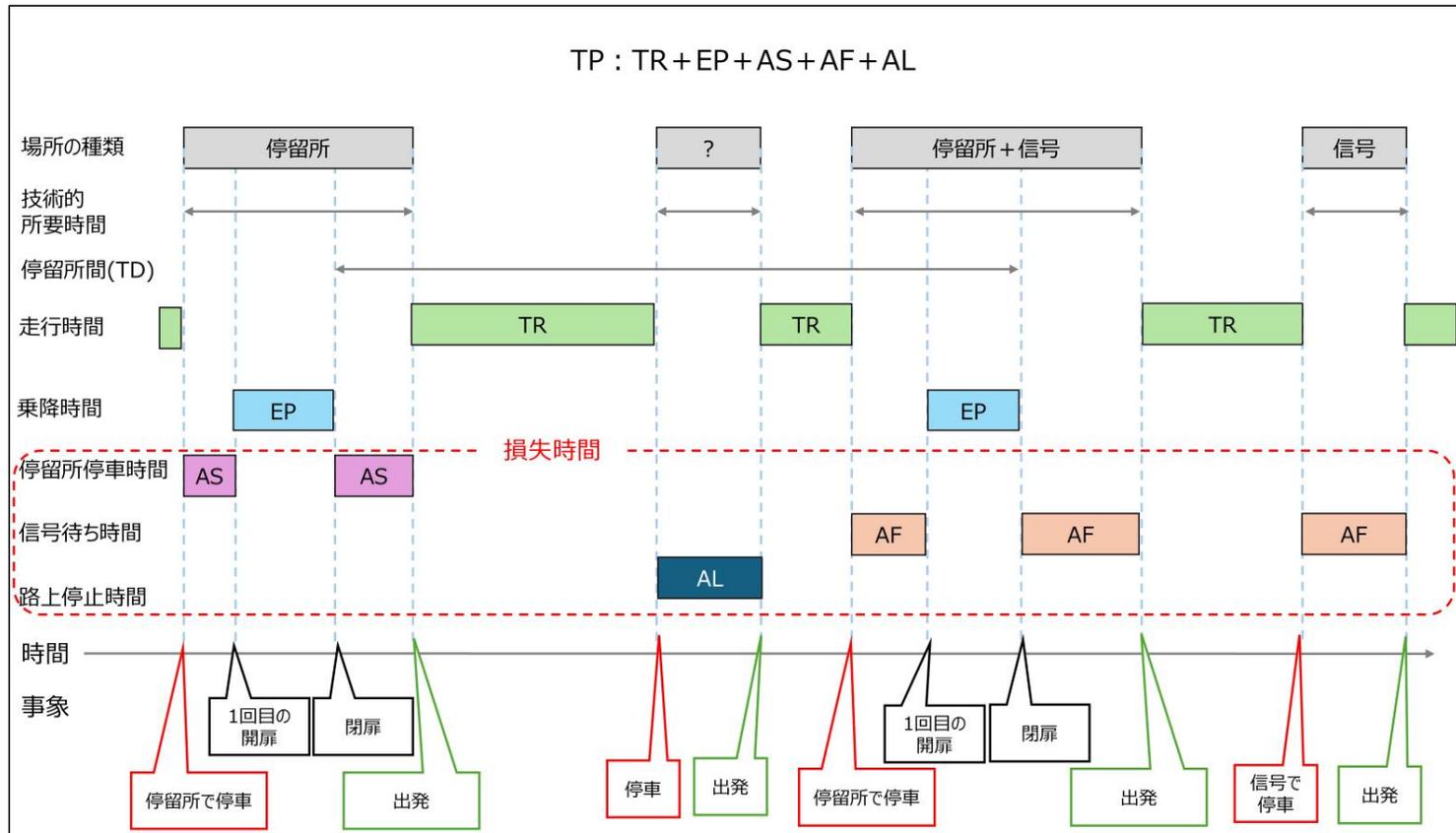
例えば・・・

□ ダイアグラムと道路状況を重ね合わせてボトルネックの原因を探る



バス会社における損失時間の考え方

□ 損失時間を減らすことで、効率的な運行を実現し、コスト削減を目指す



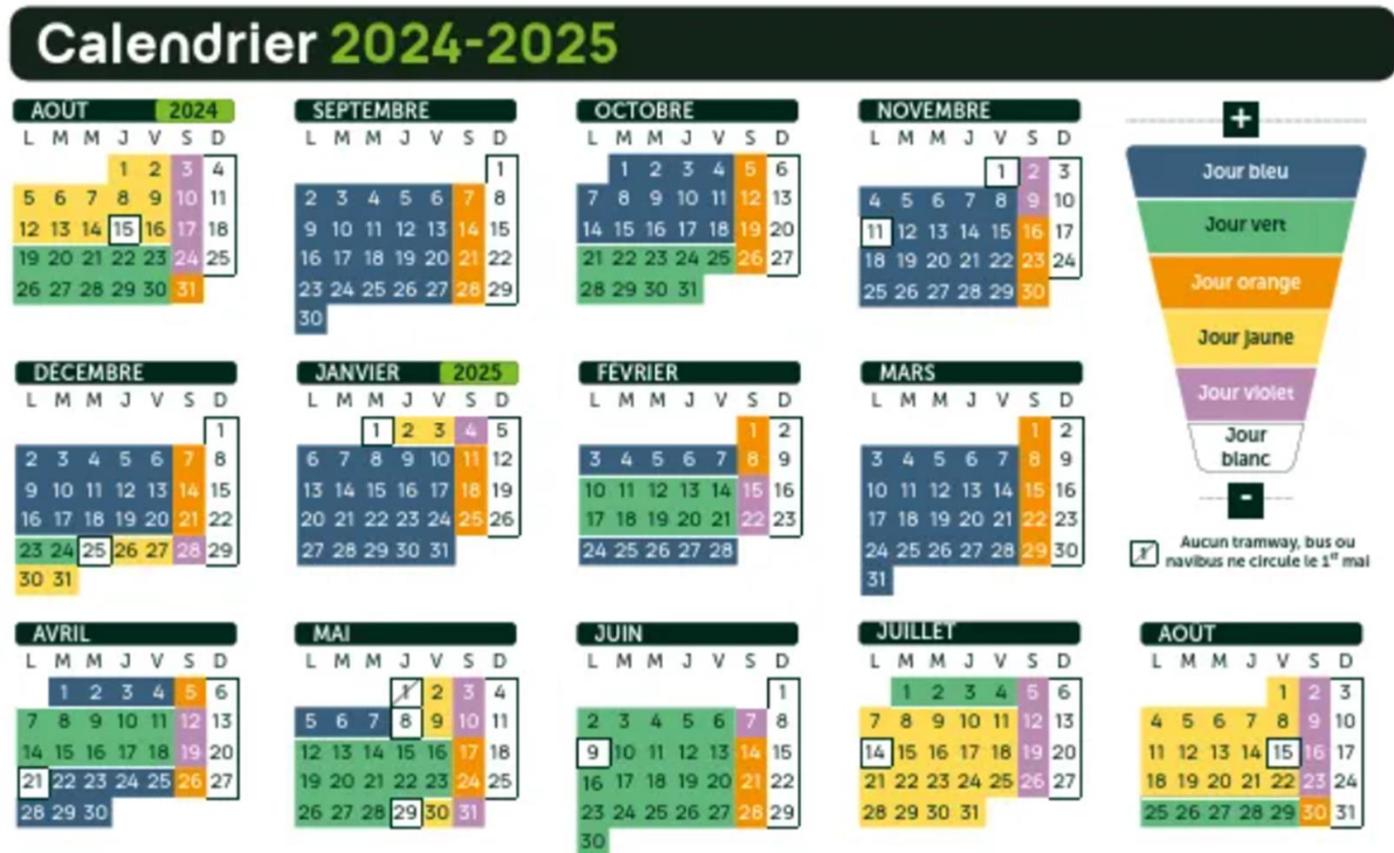
きめ細やかな運行カレンダー

- 運行ダイヤを青、緑、オレンジ、黄色、紫、白の6パターンに分けて頻度を設定。



なぜなら・・・

- ダイヤごとの細かな需給分析が可能
- 利用者目線ではなく、運転手等の休暇時期に併せて調整



フランスのバス会社での経験から

□ データ分析はバス会社の「要」

運行効率化による運転手や車両の最適化がコスト削減にもつながる

顧客満足度の維持によるペナルティの回避 などなど

□ 問題を可視化することで自治体への説得材料に

ボトルネックを可視化して、道路改良などを自治体に依頼

□ データの取得から分析まで一括でできるツールの整備

□ データ分析をルーティン化して蓄積を

□ ある意味いい加減なところがハードルを下げている

乗込調査によるOD調査は6年に1回、半日でもOK

→ **日本でもルーティン化すれば十分に実現可能
ただし、企画人材を育てることが必須**

後半

「データで攻める」地域公共交通のサバイバル術

～地域公共交通計画策定の参考書～

著者 中村文彦（東京大学特任教授）、楠田悦子（モビリティジャーナリスト）、板垣友圭梨（国土交通省）

フランスの事例を手がかりに、データ分析を活用した地域公共交通計画の策定やバス会社の路線の効率性向上の手法を解説。自治体や交通事業者の実務に役立つ一冊です。

【目次】

- 第1章 サバイバルに欠かせない武器としてのデータ
- 第2章 データで攻める地方公共団体の都市交通の戦略
- 第3章 データを武器に持つフランスのバス会社の戦い方
- 第4章 デジタルで仕事をどこまで変えられる？
～人材不足の中での地域公共交通策定の新たな挑戦～
- 第5章 【対談】 日本でのこれからの人材育成のあり方

2025年冬発刊予定！！